

学校等における省エネルギー対策に関する検討会(第2回)提出資料

学校における組織的な省エネルギーの 推進方策について

全国公立小中学校事務職員研究会

会長 鳥本安博

<http://zenjiken.jp/>



勤務校における取組概要

本校の概要

兵庫県芦屋市立潮見中学校 ※昭和54年創立

- 教職員の構成 ※()内の数字は人数
 - 校長(1) 教頭(1) 主幹教諭(1) 教諭・臨時講師(23) 養護教諭(1)
 - 栄養教諭(1) 非常勤講師・スクールカウンセラー・ALT・支援員等(12)
 - 事務職員(1) 校務職員(2) 事務補助(1) 司書補助(1)
 - 給食調理員(調理業務委託、約10名)
- 生徒数 389名(平成30年3月1日現在)
- 省エネ担当者(エコリーダー) 教頭または事務職員(1年ごとに変更)

◎平成21年～22年度 大規模改修及び耐震工事、全教室エアコン整備

◎平成27年度 給食棟完成、10月から自校方式給食開始

勤務校における取組概要

市全体の取組

- 電気ガスの使用量の削減(数値目標に基づく)
- 職員への啓発(パンフレット配布、職域内研修の実施)
- エコリーダーの育成(市主催研修への参加義務付け)
- 夏季における本庁舎及び出先機関の閉庁(学校も含む)
- 古紙配合率の高い用紙など単価契約による品目指定
- リサイクルの取組

教育委員会における取組

- 校舎改築・大規模改修工事における省エネ設備や機器の採用
- 省エネプロジェクトの推進

学校における主体的な取組

- 水道使用量のチェック
- 照明、印刷機やPCなどの電子機器等のこまめなオンオフの励行
- 環境負荷の少ない商品の購入を推進
- 温湿度計の設置(熱中症対策を兼ねて)
- エアコン(冷房)運転時の扇風機併用
- エアコン設定温度の集中管理
- コピー用紙等のリサイクル、両面印刷の励行
- 校内研修の実施

第4次芦屋市環境保全率先実行計画
～エコオフィスあしやプラン～
地球のあしたのために今やるプラン

勤務校における課題

- ・業務として校務分掌への位置づけがない(本来業務ではない)
- ・授業時数の確保、学校行事の多さ(授業や行事が優先される)
- ・教職員の多忙化(余裕がない)
- ・学校に光熱水費予算が配当されていない(省エネ意識が低下しがち)
- ・エネルギー消費量の増加要因の多様化
 - 空調機器の増加
 - インフルエンザや感染症予防対策(教室内の換気奨励)
 - 食の安全対策(給食調理における衛生管理の徹底など)



- ・省エネ推進におけるマネジメント体制が脆弱
- ・省エネに対する課題意識が希薄
- ・省エネに関する知識・理解が不足

全国の事務職員から寄せられた実践事例

徳島県 D小学校

○これまでの取組

資源ごみリサイクル運動(アルミ缶回収等)

⇒車いすと交換し地域の福祉施設に寄付

グリーンカーテンの取組

太陽光発電設備の整備に伴う太陽光発電量等のモニター表示

児童による電気、水道使用量の啓発用グラフの作成掲示

○子どもたちの意識啓発を高める新たな取組として…

全校朝会で環境委員会の児童とともに電気水道に関するクイズ、使用量グラフの発表を行った

新たな成果

◎ 子どもと連携して楽しく省エネについて学ぶことができた。

◎ 子どもたち自身で学校で使うものは税金で賄われているということの意識啓発を行うことで、感謝の気持ちとものやエネルギーを大切に使う心を養うことができた。

全国の事務職員から寄せられた実践事例

佐賀県 J中学校

平成28年度 全教室エアコン設置 ⇒省エネルギーへの関心が高まる

学校事務の共同実施組織で「光熱水費の節減のための情報発信や児童会、生徒会との連携を模索する」ことを検討

⇒生徒会での環境ISO活動への協力を通して学校全体で省エネルギー活動に取り組む

◎実践事例

- ・電気使用量、水道使用量の情報を事務職員から生徒会に提供
- ・生徒会で校内の節約意識調査を実施
- ・節水、節電の貼り紙で意識づけ
- ・総合的な学習の時間でゲストティーチャーによる環境教育の授業実施
- ・アルミ缶回収活動を地域まで対象拡大(収集ボックスの設置)
- ・各教室に温湿度計を設置

省エネプロジェクト(芦屋市)

・学校全体で取り組もう 「省エネプロジェクト」

児童生徒と教職員が協力して省エネルギーの活動を行い、節減が達成できた学校には、学校の物品購入に充てる予算を還元する仕組み

経費の節減だけでなく、東日本大震災熊本地震に伴う日本全体での省エネの取組や地球温暖化防止にも貢献

【取組内容】

H23年度 全公立学校で「節電プロジェクト」として取組開始

H25年度 電気以外にガス使用量も対象 「省エネプロジェクト」と改称

H29年度 第4次芦屋市環境保全率先実行計画(H32年度までに基準年度の6%の削減目標)を受け、平成26年1月から12月(基準年)と比較し、H29年1月から12月の電気・ガスの使用量(原油使用換算値)の削減(基準年比-2%)を達成した学校に対して、物品等を購入する予算(1校あたり3万円の予定)を還元する

【還元方法】

還元された予算で各学校が希望の物品を購入

例)省エネ教材、なわとび、竹馬、一輪車、各種ボール、百人一種、園芸用品など

みやこ学校エコマイレージ(京都市)

【趣旨】

自ら環境問題に気づき、よりよい環境づくりや環境保全に向け行動できる子どもたちの育成を目指し、京都議定書発祥の地にふさわしい「環境にやさしい学校づくり」のより一層の推進を図る。

【内容】

学校版 KES の指定や学校物品有効活用システムの利用等、学校・幼稚園(以下「学校」という。)における環境に関する実践・成果に応じてポイントを付与し、学校の予算として配分する。

1ポイントにつき10円の学校予算として換算、ポイントの有効期限なし

○ポイント付与の観点

- (ア) 地球環境に貢献される
- (イ) 取組が全市・全国に広がる
- (ウ) 取組が中長期的に継続される

省エネルギーの取組、学校物品有効システムの利用、環境教育の推進、環境整備事業、環境に関する取組の成果が評価を受けた(受賞)場合 など